

日 時：平成 26 年 1 月 21 日(火) 18:00～20:00

場 所：建築士会 会議室

出席者:(担当副会長) 長田 喜樹

(委 員 長) 金子 修司

(副委員長) 山成 芳直

(委 員) 加藤 高明、嵯峨野 雅彦、長谷川 行彦、村島 正章

(事 務 局) 佐川事務局長 田中職員

欠席者:(委 員) 石井 明、加藤 清、菊嶋 秀生、芝 京子、永井 香織

<確認事項>

1 前回(12/17)議事録の確認【資料 1】

○前回議事録案が異議なく承認されました(前回同様、メールリストで事前送付済み)。

≪事務局より補足≫

・承認済の平成 25 年 11 月総務企画委員会議事概要について、修正要望がありましたので応じることとし、12 月議事概要とあわせて修正案をメールリストで送付しましたがご異議はありませんでした。

<協議事項>

1 平成 26 年度(一社)神奈川県建築士会事業計画(案)について【資料 2】

≪事務局より資料 2 に基づき説明≫

・従来の書式では、重複して表記された部分があったこと、また どこが行う事業か判りにくいという意見があったため、書式を変更しました。なお、重点事業は、会長と打合せを行った結果「会員増強策の強化」としました。

【質疑応答】

問:(本資料の)事業計画案・予算案の承認の流れを教えてください。

答:3月の正副会長・常任理事会に諮った後、最終的には同月の理事会で承認いただくことになります。従って、2・3 月の本委員会には十分に精査した状態で諮る予定です。

問:本日の資料の内、どこまでが理事会に出る資料ですか。

答:P4～9 までです。

⇒表記方法について、レベルが合っていません。例えば、Y 支部と S 支部では表記内容に差があります。あまり書きすぎても意味のないものですので、その点は考慮してください。

≪担当副会長≫

・ある程度は事務局で書き足しても良いと思います。例えば、S 支部は HP の更新や支部たよりの発行もあるはずです。

また、議論になるのは、会員増強のために何を行うのか、ということと思われます。青年委員会は引き続き会員増強活動を行うでしょうし、情報広報委員会は次年度より SALON の隔月発行を予定していますが、要は、次年度は会員増強をどのくらい頑張るのか、例年どおりにいくのかはどんな部分かということです。

⇒青年委員会は、会員増強のために予算増となっています。(事務局)

・事業計画には記載と予算の計上項目は、できる限り整合させるべきと思います。

《委員長》

・会員増強について何かあるか、本委員会から各委員会に聞く手もあります。

《委員》

・K支部の事業計画は、事務局で依頼した書式と異なっているので、事務局で調整願います。

《委員長》

・支部の主体性も大事ですので、内容の修正を過度に求めることは問題があるでしょう。

⇒事務局より、支部の意見もきちんどうかがいながら、適宜修正いたします。

《副委員長》

・2/3 開催の支部長・委員長会議でも、おそらく議論されると思いますので、提出された各委員会・支部の原案は、そのまま資料として配布してください。

※表記方法について、次回の委員会までに同じレベルに揃えた案を作成することになりました。

2 平成 26 年度(一社)神奈川県建築士会予算(案)について【資料 3】

《事務局より資料 3 の予算案に基づき説明した後、次のとおり議論がありました。》

・会員増を掲げているのにもかかわらず、前年度予算時に比べて会員減を見込んだ会費収入予算となっているのは疑問です。

⇒率直に言って、前年度までは会費収入を過大に見積もった予算であったため、実態と乖離していました。とはいえ、休会している方へ働きかけることや滞納者リストを早めに作成して対応するなど、会費収入増に努力いたします。

・人件費は、退職等の職員減にもかかわらず、何故前年より増加しているのですか。

⇒前年度予算の見込が低すぎたためです。今回の計上額は当年度実績に近い額です。

⇒そのような事情だと、対前年度は予算ベースで比較しても意味がありません。前年度の決算と比較するなど、決算ベースで議論しないと分かりにくいです。

《事務局より補足》

・平成 25 年度予算は実態と乖離していました。慣例にとらわれず、実行予算に近い状態で編成せよとの会長指示があったため、当資料は、担当職員が実態ベースで積み上げました。したがって、実行予算に近いものですが、予算時点から赤字が見込まれてしまうため、次年度の事務局体制も含めて、再検討が必要だと考えています。最終的には収支均衡で提出いたします。

【質疑応答】

問：建築士試験及び指定登録機関収入の減少の理由を教えてください。

答：建築士試験は受験数減、指定登録機関収入は合格者数減によるものです。

問：クリーニング工場の実態調査については、計上されている分だけ委託が見込まれるということですか。

答：千葉県が今年から調査を始めたこともあり、国は次年度も予算要求をしているとのことですので、前年度並みを計上しました。

《担当副会長》

・委員会で独立採算がとれているのは情報広報委員会、教育講習委員会、CPD・専攻建築士制度委員会ぐらいです。委員会活動だけで、200 万円の赤字になっていますので、その実情を各委員会に説明し、対策を検討すべきと思います。

《委員長》

・こうした収支状況はしばらく続き、簡単に好転しないようにみえます。会員増強をしながらも、支出抑制も必要になります。前回の理事会で N 理事より提案のあったとおり、消費税増税に合わ

せた会費の値上げも検討すべきではないでしょうか。

《事務局》

・事務局内では、いかに無駄をなくして運営することに、まず取り組んでいます。また、会員増強だけでなく、平成 27 年度予算からは、今後のあり方も踏まえた財源配分等の議論を始める必要があると考えています。

⇒役員改選もあるので、今から議論しておくべきです。役員が変わって次期執行部がいきなり会費値上げを実施するのは難しいでしょう。平成 26 年度予算時点から議論すべきです。

《担当副会長》

・平成 27 年度までならんだ予算とする場合、会員数が現状維持・減少・増加、業務委託がある・無し等のケース分けでシミュレーションし、会費額がこのままだと〇年で債務超過になるということを示す必要があります。

【質疑応答】

問：建築士会はどこもこうした状況なのですか。

答：会費が異なるので、一概には言えません。

⇒他の会の会費については、本会より高額なところかなり存在します。一般会員は、そうした事情をご存じないでしょうから、そうしたことも示す必要があります。（委員長）

《委員》

・過去、会費を 12,000 円から 15,000 円に上げた際、会員がどの程度減少したのかデータがあれば示してください。

・シンプルに言えば、消費税が上がれば、少なくとも増税分は収入を増やさないと収支均衡が崩れます。

《担当副会長》

・平成 17 年度の財政危機の際は、額は減ったものの行政からの業務委託が存続していましたが、今回はそれが全く見込めないため、さらに厳しい状況です。

《委員》

・例えば理事会のお茶代カット等、見直せる部分はささいなことでも見直すべきです。また、各委員会にも削減の検討を依頼してはいかがでしょうか。

【質疑応答】

問：活動交流会は 20 万円以上かかったのですか。

答：はい。連合会からの補助金(5 万円)を足して賄いました。

⇒説明がないと分かりにくいので、備考欄を有効に活用してください。

《委員》

・いずれにせよこのままでは予算が編成できません。300 万円の赤字をどうするかを考える必要があります。改めて積み上げて、不必要なものはカットしてください。

《副委員長》

・削減箇所については、ある程度事務局の決め打ちでよいのではないのでしょうか。

《委員》

・固定費は下げられませんので、増強ではなく維持という姿勢も必要です。

※備考欄を増減の理由を記載するなど、事務局で再度精査してから正副会長・常任理事会に諮ることになりました。

<報告事項>

1 賛助会イベントについて【資料なし】

《事務局より報告》

- ・本日現在で 35 名の申込があります。

○その他

《事務局長より報告》

- ・三会合同賀詞交歓会(1/17)にご協力いただきありがとうございました。出席者は約 260 名でわずかですが黒字になったとのこと。なお、士会からは約 90 名出席しました。
 - ⇒賀詞交歓会とあわせて、他の会合(正副会長・常任理事会等)も同会場で開催すれば、士会からの参加者を増やすこともできますが、いかがでしょうか。
 - ⇒会場費が高いため、実施は難しいと思います。
 - ⇒士会からの参加者が少ないのは従来に比べ会費が上がったことも考えられます。

次回は平成 26 年 1 月 21 日(火) 午後 6 時からの開催です。